



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立日の出中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
 オリンピアン自身の様々な経験を通して
 「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
 この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
 日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
 チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
 ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
 オリンピックの価値を生徒に伝え、
 オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：上田 藍先生(トライアスロン)
【出場オリンピック／北京2008大会、ロンドン2012大会、リオデジャネイロ2016大会】
- **期 日**：2025年2月7日(金)
- **ク ラ ス**：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



トライアスロン競技で北京2008、ロンドン2012、リオデジャネイロ2016のオリンピック3大会に連続出場し、今も現役で競技を続けていると自己紹介。運動の時間では、オリンピックバリューの3つの価値意識して取り組み、より良い結果を出せるようにチームで協力してほしいと伝える。準備運動は、チームに分かれ、ドリブルと縄跳びをしながら走って繋げる「2種目リレー」を実施。走者は、ドリブルが終わったらボールを決められた場所に置くことを守り、フェアプレーでリレーに取り組もうと伝える。

○主運動等



主運動は「トライアスロンリレー」を6チーム対抗で実施(全3回)。準備運動で実施したドリブル走と縄跳び走の2種目に加え、片足ケンケン走1種目の追加を多数決で決定。1人目は①ドリブル走でスタートし、②片足ケンケン走で折り返し、③縄跳びで走りながらスタートに戻る。次走者は、前の人から受け取った縄跳びで走りスタート。走者交代の度、1種目目と3種目目の順番が交互に変わる。トライアスロンでは、ヘルメットのアゴ紐を閉めず自転車に乗ってしまうとペナルティとなる。皆もトランジション(次の種目に移る準備)をイメージし、ルールを守りながら、より良い結果を出す方法を考えようとする。



トライアスロンリレーは短距離の中で3種目を行うため、混乱して間違ってもあったが、互いに声を掛け合い失敗をカバーしたり、次走る時は改善しようと取り組んだので、タイムを上げることに成功した。ベストを尽くし、チームで協力し、フェアプレーで真剣に競ったからこそ、より楽しむことができたと思う。運動の時間での体験は、全てオリンピックバリューに繋がっていると覚えてほしい。座学の時間では、先生にとってのオリンピックバリューについて皆に伝えたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：上田 藍先生(トライアスロン)
【出場オリンピック／北京2008大会、ロンドン2012大会、リオデジャネイロ2016大会】
- **期 日**：2025年2月7日(金)
- **ク ラ ス**：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



トライアスロン競技はシドニー2000大会から正式種目となりスイム、バイク、ランの3種目で競う。現在はオリンピックよりも距離の長い、ロングディスタンスと呼ばれるカテゴリーで現役を続けている。トライアスロンは、自転車やゴーグル等使用する競技用具も多く、沢山の人間に支えられて競技を行える。皆も仲間の力を借りることで、1人では達成できないような目標でも手が届くようになる。仲間から支えてもらえる人になるためには、常に周りの環境に感謝する気持ちで行動することが大切だ。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたこと、考えたこと等をオリンピックバリューに当てはめてみよう。
 発表：エクセレンス：「勉強とスポーツ」「諦めない」「全力で取り組む」「夢中になる」「最後までやり遂げる」等
 フレンドシップ：「応援する」「声をかけ合う」「ポジティブ思考」「分かち合う」「コミュニケーションを大切にする」等
 リスペクト：「感謝」「道具を大切に扱う」「支えてくれる皆」「相手を尊重する」「ズルをしない」「スポーツマンシップ」等



今日の授業を通して、オリンピックバリューは、色々な形で皆の身近に存在していることが分かってもらったと思う。先生の競技人生は、負けや失敗の数の方が多いが、25年間競技を続けることができたのは、諦めない気持ちと楽しむ気持ちを大事にしてきたからだ。上手いかわからない時こそ、成長のチャンスであり、諦めずに努力を続ければ、成功に繋がることを覚えてほしい。皆はまだ沢山の可能性を秘めているので、今日学んだことを忘れずに、様々なことに挑戦して行ってほしいと伝え、授業終了。

■修了証贈呈

